

Max Classroom.net

入試問題アプローチ 2017

明治大学 全学部入試

(試験時間 60 分)

A 入試概況

全学部入試： 過去 3 年間の受験者数、合格者数、倍率

	2017 年度入試			2016 年度入試			2015 年度入試		
	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率
文	2,550	390	6.5	3,185	344	9.2	2,832	689	4.1
法	2,172	509	4.3	1,987	456	4.4	1,868	448	4.2
政治経済	2,677	276	9.7	771	223	3.5	738	234	3.1
経営	1,477	256	5.8	1,645	241	6.8	1,706	252	6.8
商	1,797	249	7.2	1,729	249	6.9	1,917	247	7.8
国際日本	1,103	124	8.9	1,095	128	8.6	1,101	141	7.8
情報コミュ	1,580	164	9.6	1,379	180	7.7	1,329	172	7.7
総合数理 (3 科)	228	41	5.6	157	42	3.7	183	38	4.8
総合数理 (4 科)	781	149	5.2	612	184	3.3	757	156	4.9
理工	2,785	717	3.9	2,689	608	4.4	2,686	625	4.3
農	1,825	264	6.9	1,628	231	7.0	1,752	229	7.7
	18,975	3,139	6.0	16,877	2,886	5.8	16,869	3,231	5.2

* 合計の倍率は全体受験者÷全体合格者の計算式で算出

定員充足率の厳格化に伴い、明治大学は 2016 年度は前年度比 97%、2017 年度は 95% と合格者の数を絞ってきた。全学部入試でも倍率が 2 年間で 0.8% 上がっているが、これは一般個別とセンター利用の倍率上昇と同じポイントであり、入試方式に限らず同じような絞り込みがされていると言える。その明治大学は 2018 年度には定員を合計で 1080 名増やすが、2018 年度はさらなる厳格化が行われるため、合格者の数がどこまで増えるかは短絡的に言うことはできない。それでも、定員の 2~2.5 倍の合格を出すとして、2000~2500 名の合格者が増えるわけで、他大学がさらに合格の絞り込みを進め、MARCH のハードルが上がっていく中で、明治大学という選択肢は多くの受験生を呼び込むだろう。

次項の表にある通り、全学部入試を一般個別方式と比べると、倍率では大きく差のない学部でも偏差値の面では全学部のほうが 2 ポイントほど高い傾向が見て取れる。一般個別のほうが一般方式よりも受かりやすいと言える学部はなく敬遠してしまいがちだが、前述のとおり、今年度募集定員を大幅に増やす中、明治大学に強い志望を持つ生徒は積極的に全学部を受け、受験機会の拡大を図るとよいだろう。また、2017 年度に始まった経営に加え、商、国際日本でも英語 4 技能試験活用方式が採用される。初年度は特に敬遠される可能性もあり、倍率、偏差値ともに他方式よりもかなり低く出る可能性もあるため、設定スコアを所有している受験生は検討したい。

2017 年度入試 方式別の募集人数と倍率

	一般入試 個別		一般入試 英語外部試験		一般入試 全学部		センター	
	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率
文	412	6.4			92	6.5	78	5.2
法	330	4.5			100	4.3	120	3.0
政治経済	465	4.5			45	9.7	110	2.8
経営	270	6.6	40	2.6	30	5.8	55	3.9
商	450	6.7			60	7.2	115	4.6
国際日本	180	5.0			28	8.9	30	4.4
情報コミュ	325	6.6			22	9.6	40	5.6
総合数理 (3科)	104	7.0			61	5.3	19	6.0
理工	480	3.7			90	3.9	68	3.5
農	307	5.2			48	6.9	55	3.7

過去 2 年間の入試方式別の偏差値

	2017 年度				2016 年度			
	一般 個別	一般 英語	一般 全学部	センタ ー	一般 個別	一般 英語	一般 全学部	センタ ー
文	67.5		67.8	71.3	65.8		67.2	70.3
法	65.3		68.4	70.1	64.5		67.4	68.8
政治経済	69.6		71.7	71.8	67.8		70.3	70.6
経営	66.2	64.9	68.3	68.0	64.8		66.3	67.4
商	65.7		68.4	70.6	65.7		67.2	69.3
国際日本	67.8		69.8	70.1	67.1		67.6	69.7
情報コミュ	65.6		67.6	69.0	63.2		66.6	67.4
総合数理 (3科)	58.9		60.9	63.5	58.9		58.3	64.9
総合数理 (4科)			60.7				59.1	
理工	64.2		64.8	66.6	64.3		65.9	66.6
農	64.2		66.6	66.8	62.8		67.0	65.8

*センターは 2 つの方式の偏差値の単純平均を算出している (募集単位ごとの母数は考慮していない)

過去 3 年間の合格者の最低得点 (%) : 一般個別、全学部

	2017 年度入試		2016 年度入試		2015 年度入試	
	一般	全学部	一般	全学部	一般	全学部
文	73.3	73.0	70.3	73.0	70.3	69.3
法	65.1	71.0	64.9	72.0	66.6	72.0
政治経済	67.1	76.9	70.6	68.0	65.1	70.0
経営	67.1	72.9	66.3	72.6	64.9	71.4
商	72.0	74.2	62.3	73.3	68.9	73.6
国際日本	72.9	76.3	69.3	72.3	66.2	71.3
情報コミュ	65.3	74.6	63.7	71.4	65.7	70.6
総合数理	54.7	70.3	52.5	60.5	70.9	68.5
理工	68.6	76.0	69.4	69.3	69.4	74.5
農	69.0	71.7	52.5	60.5	69.7	73.7

* 合計の倍率は全体受験者 ÷ 全体合格者の計算式で算出

* 複数学科ある学部は、2017 年度の結果において中間学科の数値を採用

- ・ 文 = 日本文、政治経済 = 経済、総合数理 = 先進メディアサイエンス、理工 = 応用化、農 = 食料環境政策

B 英語試験の概況

以下の表のとおり、問題は2～3つの大問で構成されている。2013年度までは4択の文法・語法問題が10～14問入っていたが、2014年度以降は全て読解問題である。設問の数は35～50問となっており、表を見る限り、設問の数がここ5年間で増えているように見て取れるが、実は2012年度までも50問あり、2013～2015年度は設問数を抑えたということが実態であろう。試験時間が60分であることを考慮すると、おそらく設問も50より増えることはなく、文法語法問題、ミニ会話問題のような時間消費の少ない問題が追加されることはあっても、2016、2017年度の問題量を大きく超えるものは出てこないだろう。なお、設問の数は表紙に「解答番号」として記載されている。

	2017年	2016年	2015年	2014年	2013年
1	読解	読解	読解	読解	読解
2	読解	読解	読解	読解	読解（会話文）
3		読解（会話文）	読解		文法・語法
合計	50問	50問	40問	35問	39問

読解の語数を見てみると、大問が2つであろうが3つであろうが、おおよそ2000語前後と言える範囲に収まっている。個々の長文を見ると、2016年度は例外的だが900～1000語超の文章も頻度が高いのも分かる。

語数だけ見るとMARCHにあって総語数2000～2500語程度は決して多いものではないが、文系学部の大体が80分～90分の試験であり、この全学部は60分という短い時間設定であることを考えるとやはり時間配分と読解と解答のペースが問われることになる。

	2017年	2016年	2015年	2014年年	2013年
長文1	1070語	600語	640語	1030語	1080語
長文2	920語	620語	990語	810語	720語
長文3		600語	500語		
合計	1990語	1820語	2130語	1840語	1800語

【時間と難易度の目安】

問題の難易度はMARCHレベルとしてやや易しめ～標準的と言える。難易度は低めに設定して60分という時間は2000語を読み、50の設問に答えるため長すぎることはないが、文章が難解なものではなく、設問も比較的答えやすいものが並ぶため十分に対応できるであろう。最近2年分の問題では、大きな難易度の差はないが、やや2017年度が平易に感じる。

時間配分は大問の数によって調整する必要が出てくるが、700語を20分、1000語の問題を25～30分で解くということをベースにしておくが無難だろう。2ページの合格者の最低得点率を見ても、個別試験よりも高い点数が並んでいることが分かる。ほとんどの学部が7割越えのボーダーとなっており、学部によっては76%という非常に高い得点率を求めるところもある。あくまでもこれは「合格者の最低得点率」であり、合格者平均点は8割を超えることがある、ということが言える。他教科の難易度も関

MAX 入試問題アプローチ 2017 明治大学 全学部

係してくるが、少なくともここ数年は「易しいけど、落とせない入試」と言える。なお、配点は1問2点×50問=100点という単純に考えてよいだろう（大学のHPに「外国語は、配点100点を200点に換算する」と発表されている）。

2017年度の場合

	内容・語数	時間	難度
1	読解問題	25～30	A～B
2	読解問題		

2016年度の場合

	内容・語数	時間	難度
1	読解問題	15～22	A～B
2	読解問題		
3	読解問題（会話形式、空所補充）	12	B

C 出題形式ごとの分析とアプローチ

読解問題

【2017年 大問1】

〔I〕 次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

1

A few years ago, my son Sam, then about 16 years old, turned to me as he was rushing out the door with some friends. "Dad, could you go to my room and turn off the stereo for me?" he asked. I went to the stereo in his room and tried to find the "On-Off" switch. Failing that, I looked for something marked "Power." No such luck. I looked in vain for the manual. Finally, in frustration, I simply unplugged the stereo. Eventually I learned that I could have turned it off by flipping one switch from "Tuner," which means radio, to "Tape," and then turning the tape player off.

2

Learning to operate our increasingly complex machinery is one of the perennial struggles of modern life. Engineers design equipment⁽¹⁾ so that it will work as efficiently as possible from an engineering standpoint, but they do not

(中略)

問1 文中の下線部(1)～(7)にそれぞれ最も近い意味の語句をA～Dから一つ選び、解答欄の該当箇所をマークしなさい。

(1) equipment

A. apparatuses

B. indifference

C. organization

D. suspension

(2) facilitate

A. make easy

B. make popular

C. make public

D. make ready

問 2 文中の二重下線部(8)～(10)のそれぞれの意味として最も適切なものをA～Dから一つ選び、解答欄の該当箇所をマークしなさい。

(8) some

- A. some features on a camera
- B. some intelligent and educated people
- C. some military and industrial gadgets
- D. some services for business and industry

問 5 7段落、8段落及び9段落の題名として最も適切なものをA～Dから一つ選び、解答欄の該当箇所をマークしなさい。

7段落

- (15)
- A. Control of Devices
 - B. Design of Machinery
 - C. Meanings of Loud Noises
 - D. Trial-and-Error Research Methods

問 6 以下の英問の答えとして最も適切なものをA～Dから一つ選び、解答欄の該当箇所をマークしなさい。

(18) According to this article, what is ergonomics?

- A. It is the study of how people respond to economic changes.
- B. It is the study of military personnel.
- C. It is the study of people using machines.
- D. It is the study of people's psychological development.

【形式】

600～1000 語程度の長文に対して 15～28 問程度出される（大問の数によって異なり、決まった設問数はない）。設問形式は、空欄補充、単語や語句の意味を問う問題、代名詞の指すものを問う問題、内容理解、並び替えなどバラエティに富んでいる。

【分析】

文章の難易度はやや易しい～標準的と言え、センター並みと言えるものも含まれ、MARCH 演習をしてきた受験生には比較的解きやすいだろう。また、設問もストレートかつ単純なものも多く設定されており、内容理解は細かい部分よりも全体像やパラグラフの趣旨を問うものが多い。基本に忠実に概要理解をする力がまずは問われていると言えよう。単語の問題は基本単語が多く、Target 習得ができていれば楽に答えられるし、落としてはならない。その他、下線部の意味や代名詞を問う問題も難易度は低く、着実に得点を重ねたい。前頁の例題、問 5、問 6 に見られるように段落ごとの内容理解を出すものが多いことが 1 つの特徴として挙げられる。

【アプローチ】

多様な形式の問題が場合によっては 28 問設定されているため、First Reading で概要をつかんで、Second Reading でポイントを絞りながら解答をしていこう。パラグラフごとの内容理解が多く出題されるため、Second Reading ではパラグラフごとに読み直す必要が出てくる。その分、1 行 2 行を絞って読み直すというよりはパラグラフ全体を読み直し、結果的に広く Second Reading をすることになる。「どうせ Second Reading で広く読み直さなくてはならないのだから」というぐらいの気持ちで、First Reading で効果的な速読を心掛けたい。800～1000 語だとして、First Reading で 10 分以内にしたい。

【MAX 感想】

特に難解な単語や構文で引っかかることもなく、「素直に読んで、素直に解ける問題」である。単語の問題をはじめとして、「こんなに簡単でいいのか？これはみんなできちゃうぞ」という問題も多くあった。明治を受けるそうなら、ここで取りこぼすことは考えられず、やはり最低得点でも 7 割を超える入試というのはいずれも。それでも気を付けたいのはやはり 60 分という時間であり、焦る必要はないが、あまりゆっくり問題を解いていると時間が無くなってしまうので、全体的にはサクッと進め、内容理解も効率よく Second Reading を進めていきたい。下に示した私自身の所要時間にもある通り、問題数が多いためどうしても Second Reading が First Reading の倍かかる大問も出てくる。特に 2017 年度は、大問 1 のほうが難しめで、やや時間がかかるが、そこで時間を取りすぎて、大問 2 が消化不良にならないように気を付けたい。

私の所要時間は、2017 年のものは大問 1、大問 2 とともに First Reading が 7 分。Second Reading を含む解答自体は大問 1 が 10～15 分といったところだった。2016 年度は大問が 3 つ設定されており、1 つの大問あたりの語数は文が短く、設問数が少ないため、First Reading が 6 分かかり、全体は（First Reading を含め）13～20 分ぐらいであった。

【2016年 大問3】

〔Ⅲ〕 次の会話を読んで、以下の各問に答えなさい。

Chris: Hey, Taro! Why are you all ⁽³³⁾_____ ?

Taro: Yeah, on such a hot day it's killing me ⁽³⁴⁾_____ all this.

Chris: I know, you're job hunting, right? So, the necktie and jacket are ⁽³⁵⁾_____.

Taro: That's right, at least here on campus I can ⁽³⁶⁾_____ my tie and take off the jacket. But when I go to the interview later today, I'll have to be in full uniform.

Chris: What happened to Cool Biz and Super Cool Biz?

Taro: They work when you're in the company, I guess, but not when you're trying to get a job.

Chris: Yeah, I suppose you have to ⁽³⁷⁾_____ your respect to the company by wearing a suit.

Taro: True, but I'm also making it ⁽³⁸⁾_____ that I will do whatever is necessary to contribute to the company, despite the heat.

Chris: Really? I don't think I could tolerate that. Today a T-shirt and shorts is the only way to go.

(中略)

空欄 (33) ～ (50) に入れるべき最も適切なものをそれぞれ1つ選び、その記号を所定の解答欄にマークしなさい。

- 問33 A. dress up B. dressed up
 C. dressing up D. undressed
- 問34 A. to take on B. to wearing
 C. to putting on D. to wear
- 問35 A. required B. requiring C. must D. necessity

2016 年度の大問 3 についても軽く触れておく。

【形式】

600 語の会話形式の長文に対して 18 の空欄補充を行う。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

会話形式であるが、完全に長文の内容理解と捉えてよい。会話表現を問われることはほとんどなく、文脈の中で正しい語（句）を選ぶ問題である。多少、文法的な判断も必要とされるものも紛れているが、あくまでも基本は内容把握と文脈判断と言ってよいだろう。全体的にはストレートに答えられるものがあるが、判断がつきづらいものも何個かあり、私も得点を逃してしまったものもある。18 問中 4 問間違えまでに抑えたい（どんなに落としても 5 問までに抑える）。